

出題分析			
試験時間	75 分	配点	150 点
		大問数	3 題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通り大問 3 つで構成され、設問数は昨年とほぼ同じであった。出題形式については、語句記述問題が増加したが、正誤判定問題は大きく減少した。また、昨年はなかった年代判定問題の出題もみられた。ヨーロッパに関する出題が多い傾向が 3 年続いており、特に文化史の設問を含んだ近代ヨーロッパ史の大問は一昨年も扱われた。一方、今年では 20 世紀以降の内容は出題されなかった。正誤判定問題が大きく減少し、昨年に比べて難しい判断が必要な設問が減ったため、全体的な難易度は昨年よりやや易化したといえる。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	中世ヨーロッパ史	設問 1 : (i)・(j) . 同志社大学の入試世界史では美術様式や建築様式が問われることも多いため、名称だけでなく時代や特徴についても整理しておきたい。設問 3 : ハンザ同盟については在外商館について問われることも多いため、資料集等でしっかり確認しておきたい。設問 4 : 4. 綿織物ではなく毛織物が正しい。設問 6 : b. 帰納法を確立したのはフランス=ベーコン。d. 『方法序説』はデカルトの著作。設問 7 : 設問文に「漢字 3 文字」という指示があるため、「大開墾時代」と書かないように注意。なお、空欄 A の 2 行上に「開墾」と書かれている。フランスのシトー修道会が大開墾運動を主導したことも覚えておきたい。設問 10 : 「争いの呼称」が問われているため、「ツンフト」とだけ書かないように注意。	やや易

II	中国史 (隋～清)	設問 2 : ア. 波線部 (B) に該当。永嘉の乱で匈奴に西晋が滅ぼされ、江南で建康 (のちの南京) を都として東晋が存続した。ウ. 波線部 (A) に該当。キタイ (契丹) は燕州 (のちの北京) を拠点に燕雲十六州を支配した。設問 3 : 3 が明らかに誤文だが、1 も誤文とみなせる可能性がある。サハラ交易 (塩金交易) の時期は、紀元前後頃から盛んになった、あるいは 7 世紀頃からムスリム商人との結びつきを通じて本格化したなど諸説ある。設問 7 : 当時、ユーラシア大陸では銀経済が広く普及しており、モンゴル帝国の基本通貨も銀だった。紙幣 (交鈔) は、銀の流通不足を補うために使用された。設問 10 : ③. アルタンが明の冊封を受けたことを機に、明とモンゴル (韃靼) との辺境交易が行われた。③を誤文と判断できれば、①・②・④の年代判定は難しくない。	標準
III	近代ヨーロッパ史	設問 1・設問 6 : 「諸国民の春」や『共産党宣言』については、一昨年の 2/7 入試 (大問 III) でも問われている。設問 4 : 2. ハンガリーの民族運動を率いたのはコシュートが正しく、時期も七月革命期ではなく 1848 年革命期である。設問 6 : (う). 解答としてマッツィーニを想定したのだろうが、そうであれば設問文の内容は明らかに誤りである。マッツィーニが「青年イタリア」を組織したのは 1831 年で、ローマ共和国の成立前であるうえ、創設地はマルセイユである。したがって、問題不成立のため解なし。	やや易

合格のための学習法

同志社大学の入試世界史は、標準レベルの知識で解答できる設問が多く、極端な難問は少ないため、失点をいかに防ぐかがポイントとなる。例年、文化史関連の出題が目立つ傾向にあるため、過去問や資料集等を用いて万全の対策をしたい。また、語句記述問題も毎年出題されるため、漢字やカタカナの表記にも気を付けたい。近年、同志社大学は入試講評で受験生のカタカナ表記に対する注意喚起を行っている。判別できない字は誤答とみなす可能性もあるため、油断しないようにしたい。加えて、同志社大学の入試は解答用紙が独特であるため、特に記号問題は解答欄を間違えないように細心の注意を払ってほしい。